

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	0292400041		
法人名	株式会社 平山建設		
事業所名	グループホームやまなみ		
所在地	〒037-0301 青森県北津軽郡中泊町今泉字神山144-1		
自己評価作成日	平成25年10月10日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	公益社団法人青森県老人福祉協会		
所在地	〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20番30号 県民福祉プラザ3階		
訪問調査日	平成25年11月18日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

建物周辺の景観が良く、ホーム内からも四季の移ろいが感じられる立地となっております。また、隣接する施設の温泉で入浴ができ、合同の夏祭りには地域の住民が参加して、行事を一緒に行うなど交流を図っています。入居者様は明るく家庭的な雰囲気の中で生活しており、ご家族の方にも気軽に来て頂けるように配慮し、家族や地域との結びつきを大切に考え支援しています。職員は日々笑顔で一緒に楽しみ、一人ひとりに寄り添ったケアを心がけております。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】**

地域で昔から行き来していたスーパーや雑貨屋が頻りにホームに訪れて、入居者の方と買い物を通して触れ合いが見られており、地域密着型としての一つの社会資源を有効に活用されている。また、ホーム独自でBST(ビューティフルスマイルトーク)生活向上委員会を結成されて、近隣の関係ホームと連携してサービスの質の向上が図られており、職員も積極的に意見を出されている。災害時の体制や建物・環境整備などは母体の建設会社の協力が得られている。夜間でも緊急体制のとれたしっかりした生活支援をしており、本人や家族は安心して過ごせている。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念を、玄関先に掲示している。理念のもと、その人らしさを尊重し、これまでの暮らしに敬意を払い、これからの暮らしに希望を持てるように、一人ひとりに寄り添ったケアに取り組んでいる。	事業所全体で理念を共有されて、職員は介護の実践にあたり、理念を振り返り、日々の活動に取り組まれている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域の出張販売店の協力により、食品、日用品を購入し、馴染みの関係を築いている。また、入居者と一緒に町内のゴミ拾いに出掛けたり地域のイベントに参加している。	散歩や買い物支援など日常的に行われており、地域の食品業者や雑貨店の出張販売も行われている。入居者が自分の目で品物を確認し、金銭を支払うことで、生活意欲の向上に繋げ、地域とのつながりを支援されている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	広報にてボランティアを随時募集している。地域の夏祭りには事業所として参加し、地域に還元する取り組みを行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、運営推進会議を開催し、入居者、家族、地域住民、地域包括支援センター、行政の職員が会議に参加し、行事・都度の問題等を提示し、助言を頂きながら、サービスの質の向上に努めている。	参加メンバーも積極的で、毎回意見交換が活発に行われている。ホームからは入居者の状況や行事等の報告をし、行政からは助言を頂き、サービス向上に繋げている。内容については全て全職員へも報告され検討されている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	入居退居の報告をし、広報も送付している。課題が発生した場合には、都度相談し方向性の指導を頂いている。運営推進会議での関係性、雰囲気も良く気軽に相談出来る場となっている。	入居者の徘徊時の対応など、ホームの課題発生時は、行政へ報告し協力を依頼し、いつでも気軽に相談や情報交換がされている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	マニュアルをもとにし、研修への参加や勉強会にて、身体拘束について学び理解している。行動の制限が必要になった場合は、主治医、家族の理解と協力を得ながら、同意書も頂くと同時に、最小限度のものとし、解除は速やかに出来るように努める方針である。カンファレンス、生活記録の中に詳細している。	マニュアルの作成や緊急時連絡網の体制も整備されている。職員は身体拘束についての研修等へ参加し、参加後は勉強会を開催し全職員へ周知されている。玄関へ鍵を掛けず、入居者個々の尊厳に取り組む支援が行われている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会や定例会、外部研修に参加し、虐待防止に努めている。当ホームの方針に基づいて入居者の尊厳を第一に考え、日々のケアに努め言葉掛けに配慮し、周知徹底している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	地域包括センター、社協に勉強会を依頼し学ぶ機会を得ている。当ホームでも日常自立支援事業を利用している方が2名、成年後見制度を利用している方が1名いる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、解除の際には、入居者の家族の不安や疑問に懇切丁寧に対応している。契約に変更があった時(料金等)には、文書で通達し同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	支払等で訪問の際にはなるべく家族とのコミュニケーションを取るようし受診前後の電話報告は必須としている。又意見箱の設置、外部評価の際の家族アンケートも推進会議で公表し施設内での勉強会でも取り上げ、サービスの向上に努めている。また、退去時前には家族の思いや今後の方向性について個別に相談している。	家族の面会時、部屋でゆっくりしていただけるようお茶を出すなど配慮されており、入居者や家族の意見や要望を、気軽に話せるような雰囲気を作られている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎朝の朝礼や毎月の定例会で意見交換を行っている。職員全員から意見を聞き、提案のあったものは密に話し合いが行われ、運営に反映されている。定例会では昼食のお弁当を注文し代表者と職員が一緒に食事をする事で会話も弾み、より話しやすい環境となっている。	代表者や管理者は、週に1回は職員からの意見や要望を聞く時間を作っており、向き合って話せる雰囲気の中で職員の意見を聞き運営にも反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、職員と積極的に会話する機会を持ち、個々の状況を把握し、勤務形態や時間を考え対応している。働きながら子育てが出来るよう職員の要望にも配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員から希望者を募って、苦手分野を無くすよう、研修に参加している。毎月定例会や勉強会にて報告を行うことで職員のスキルアップを図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営推進会議や、地域のグループホーム交流会、きらきらネットワーク(ケア会議)に参加し、意見交換を行うことで情報の収集とサービスの質の向上に取り組んでいる。夏祭りでは地域のグループホームにボランティアを募り、交流を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面談時、基本情報や生活情報を詳しく聞き、不安なことや要望にも対応できるよう、また、今までの暮らしを本人から聞きだせるよう、努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人、家族のニーズを掴み、アセスメントを重要視し、不安を取り除けるように努めている。また、家での様子など聞き、信頼関係作りをしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	何を必要としているかを見極め、十分に話し合いをし対応している。必要に応じては、各関係機関との連携を図っている。ニーズに沿ったサービス提供を心掛けている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の場で得意分野を引き出しながら、人生の先輩である事に尊厳を持って、時には教わりながら共に支え合える関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事への参加を呼びかけ、入居者と一緒に過ごし、楽しめる場面を作っている。また、受診の際には家族に付き添っていただくこともあり、家族と一緒に悩み、考えながらケアに取り組んでいる。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	隣接しているグループホーム、デイサービスの面会は常とし、施設内の運動会等で地域との交流を図ると共に、家族、親戚の方の参加など行事に際しては招待状を送付するなどし、馴染みの関係が途切れない様配慮されている。	隣接する事業所全体の夏祭りや、地域の賽の河原祭りに参加して、地域の方々と会う機会を作っている。またデイサービスを利用されている方も気軽に訪れることができ、馴染みの関係が継続されるよう支援されている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	その人らしさや個性を活かし、役割や共同作業等でコミュニケーションを図り、職員とお茶の時間を過ごす等の工夫をし、意識して関わり合う場を設けている。また、隣接しているグループホームとの交流会を通じて幅広くコミュニケーションがとれるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院やサービス利用終了になった際にも家族の相談に乗り、関係を断ち切らないようにしている。また、入院先に面会する等、信頼関係を保てるように努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者のより細かいニーズを把握する為に担当制をしいている。意思疎通が困難な方に対しては日々の暮らしの中での表情やしぐさ等から本人の意向をくみとり家族からのアセスメントを大切に意向に添う支援に努めている。一人ひとりの思いを大切に生きがいを見つけ援助している。	普段のコミュニケーションの中から、入居者の思いや意向をくみ取るようにしている。意思疎通が困難な方はご家族からの情報も取り入れながら、出来るかぎり本人の思いに添った支援をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	プライバシーに配慮しながら、家族や本人、在宅時の担当ケアマネより情報収集し、入居者一人ひとりが自分らしく暮らせるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者一人ひとりの生活習慣、生活リズムを把握出来るよう、情報を共有し、その人に沿った対応を心がけ、「気づき」を大切にしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回のモニタリングは担当者が主体となって取り計らい、担当している入居者本人の思い、意向を踏まえながら話し合いが行われ、職員皆で情報の共有が出来ている。又スタッフ、家族との意見を取り入れた介護計画を作成しチームケアしている。	モニタリングは月に1回実施し、職員間で意見交換をし、必要に応じて介護計画の見直しをしている。また家族からの意見や要望も確認しながら、入居者の思いに添った介護計画作成に取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	受診状況・身体状況等、気づいたことを受診ノート、生活記録や業務日誌に記載している。職員間では、申し送りノート、ホワイトボードに記入し、情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ホーム独自のBST(ビューティフル・スマイル・トーク)生活向上委員会を結成しており、「優しい笑顔 目配り 気配り 心配り」を理念に掲げ、各棟の悩み・意見・ヒヤリハットなど報告し意見交換することにより、固定観念にとらわれず常に入居者の立場になって柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	緊急連絡網に地域の協力委員の名前を記載しており、火災、災害の時は協力を得られ、安心した暮らしができるように支援している。行事参加や訪問の受け入れも行う他、入居者自身が得意な芸を披露する等、楽しんでいただけるようにしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望に添った病院を受診出来るようにしている他、必要に応じて、適切な医療を受けられる病院への受診も支援している。また、家族と共に受診する等、良好な関係を築いている。家族が同行出来ない場合には、その都度報告し、共有している。	入居前からのかかりつけ医への受診は継続されており、ホームでの対応となっているが、必要に応じて家族も同行している。受診後は全て家族へ報告し安心できるように支援されている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師に密に連絡を取っている。入居者の健康管理、医療管理は常に相談し、24時間連絡がとれる体制となっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	重度化や終末期の指針を定めており、契約時には十分な説明をしている。緊急入院時等の同意書を作成している。医師や家族と協力しながら支援に取り組んでいる。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	急変時の対応について、AEDを設置し、又近隣の診療所とも契約し、往診体制も整えている。『重度化した場合における対応及び看取りに関する指針』はあるが、まだ該当者はない。事業所としての指針について同意書で入居時確認済である。	入居時に、重度化等の場合の指針を提示しながら説明を行い承諾を得ている。職員間でも看取りに関しての今後の方針等について勉強会を開いたり話し合いながら、看取り支援の取り組みをされている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを作成し、全職員へ周知徹底してシミュレーションを行い、普通救命講習も全員が受講している。ホーム内にはAEDを設置しており、定期的使用方法を確認している。また、夜間の緊急時は、隣接している施設より応援が来る体制を構築している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、日中・夜間を想定した避難訓練を行っている。毎災害対策は系列企業の建設会社が対応しており、従業員の中には地域の消防団員がいて、協力を得る体制である。消防署に消防計画を提出している。	火災避難訓練の他、地震時の対応についても訓練されている。訓練時は毎回消防署職員や地域の消防団員の協力もあり、連携が取れている。地域の避難場所としても隣接しているデイサービスセンターが指定されており、母体の建設会社の協力も得られている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	施設の今年度の目標として、『私達は心接運動に取り組んでいます「なにげなく・さりげなく～真心込めて心接に～」』を目標に、常に職員が目にするところに提示し日々意識しながら対応している。	勉強会や日常のミーティングで具体例を出しながら話し合いし、職員の意識の向上を図るとともに、日々プライバシーを損なわない対応を心がけている。	馴染みのある方言でなければ意志疎通の難しい方が多いため、方言を活用しながら入居者個々に理解できるような声掛けや声のトーンを工夫し、より深いコミュニケーションが図られることを期待したい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	声掛けを工夫したり、表情や反応を読み取り、入居者の希望を把握するように努めている。また、買い物や出前のメニュー選び等、自己決定できるような場面作りをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	理念に基づき、本人の気持ちを尊重し、個々のペースに合わせ、柔軟に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	馴染みの理容店、美容院の出張があり、その人らしさ、身だしなみ等に配慮している。また、入居者の個性や希望を尊重し、地域の美容院に出かけている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食器拭き、片付け等、個々の力量に合わせた家事一般の役割を持ち、職員と一緒にやっている。毎食の検食票を作成しており、メニューは写真に残したり、入居者の好みを把握して献立に反映させている。また検食表を参考に食べやすい調理の仕方、切り方等工夫している。	メニューの品数や調理方法、器などにこだわり、それがホームの特色の一つであり、入居者の楽しみともなっている。食後の片付けや食器拭きなど、能力に応じた役割を持つよう支援されている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分摂取量をチェック表に記録し、残量チェックをしながら、状況を把握している。栄養士のアドバイスを受たり、本人の嗜好を取り入れる工夫に努めている。また、夏場のスペシャルドリンクは入居者にも好評である。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、義歯洗浄と塩水でうがいを行っている。就寝前は、義歯洗浄液に浸け、清潔を保持している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	必要に応じて時間等にマーカーをひいてパターンを把握し、トイレの排泄の自立を目指している。入居時オムツを使用していたが排泄習慣が身に付いた事で布パンツ、パットの使用になった事例もあり状態により随時見直しを行っている。失禁した際もプライバシーは十分に配慮している。	必要に応じて排泄パターンを独自の方法でつかみ、トイレでの排泄につながるよう支援されており、おむつ外しに取り組み自立につながられるよう努力されている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘症の方には水分や果物、乳製品を提供したり、腹部マッサージ、適度な運動を行い、薬に頼らず自然排便を促している。また、受診時、医師に相談することもある。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	羞恥心に配慮し、個々に合わせて、安心して入浴をしていただけるようにしている。希望により隣接する施設での温泉入浴も行っており、入居者には大変好評である。	毎日入浴できる体制があり、最低でも週に3回は入浴できるように支援されている。又、希望する方には敷地内の温泉施設にも入れるよう支援されており、入居者の楽しみとなっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動を促し、生活リズムをつかみ、昼夜逆転しないように努めている。眠れない時は会話をしたり、飲み物を提供する等、安眠できるよう支援している。また、足浴、マッサージ等のタクティールケアをする等、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者の病歴を把握しつつ、服薬支援前に目的、副作用を理解している。説明書は生活記録に挟んで確認できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者に合わせた役割を持ち、自発的に動いていただけるように支援している。レクリエーションの時間は、職員も一緒に歌ったり、踊ったりと、得意の唄や踊りを披露できるような機会を設けている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者が気分転換できるよう、天気の良い日は外を散歩したり、ドライブを行っている。また、小旅行もあり、大型バスで外出もしている。本人の希望で買い物等の外出支援を行っている。地域の行事にも出かけている。	敷地内は公園風に整備されており、周囲の見晴らしもよいことから日常の散歩コースとなっている。又、夕日の海岸や紅葉見物などの外出計画や外食も取り入れ、入居者の楽しみとなっている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族からお金を預かり、管理している。小額を所持している方が3名おり、買い物は自己決定できるようにしている。本人の力量に合わせお金の支払いを行っている。また、通い帳を利用し、出張販売での購入を行っている人もいる。家族には毎月小遣いの確認後、捺印をしていただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	要望があった際は、いつでも電話がかけられるよう支援している。子機を使用し、居室での会話ができるような配慮もしている。手紙は本人の同意を得て開封している他、入居者の状況報告として、毎月家族に手紙を送付している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	自然の光を取り入れるため、天窓を作り、明かりを取り入れている。食器を洗う音や調理中の匂い等、五感や季節を感じられるように工夫している。食堂は共有するリクセーションの場となる様、大きなソファ等の工夫をしている。アロマ空気清浄器、加湿器、エアコンにて快適に過ごせるよう支援している。また、その時々にあわせ、入居者の好みの音楽(民謡、歌謡曲)を流している。	ソファをゆったりと配置し、共有空間で落ち着いて過ごせる雰囲気がある。また廊下には入居者が休憩できるよう椅子が備えられ、居室以外でも快適に過ごせるよう配慮されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはくつろげる様ソファがあり、それぞれが思い思いに過ごせるように配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室入り口には、職員手作りの表札を掲示している。ペット、椅子、消灯台は各居室に設置しているが、タンス、仏壇、写真、使い慣れた目覚まし時計、ラジオ、ベッド、ポータブルトイレ等、馴染みのある物を持って来てもらう等、安心して過ごせるよう配慮している。また、亡くなった家族の写真を置き、供え物や花を飾ったりしている。	自宅で使っていた家具や電化製品など持参してもらい、温かみのある、その人らしい居室づくりに努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内はバリアフリーになっており、廊下には手すりを設置している。また、入居者がわかりやすいよう、標識などの表示の仕方を工夫し、入居者が混乱しないように配慮している。		